

# カメルーン農村におけるキャッサバ生産・加工の商業化に関する研究——住民によるキャッサバ改良品種の受容に注目して——

魚住 耕司

平成 26 年（編）入学

派遣先国：カメルーン国

渡航期間：2020 年 2 月 9 日から 2020 年 4 月 1 日

キーワード：キャッサバ、改良品種、商業化

## 対象とする問題の概要

カメルーン南部州のエボロワの近郊にある調査地では、政府、国際機関、日本の援助機関が森林保全、住民の現金収入の増加を目的にキャッサバ・プロジェクトを実施し、キャッサバの生産・加工の商業化を促進するため、多収で耐病性のある改良品種の普及、加工施設の建設を行ってきた。プロジェクトは一部の住民に恩恵をもたらしたが、親族集団間での不平等な利益分配、キャッサバの品種に対する住民の嗜好といった問題も引き起こした。

## 研究目的

研究目的は住民生活への農業の商業化の影響、プロジェクトに対する住民の反応、プロジェクトの実施過程で生じる問題を明らかにすることで、キャッサバの品種に対する住民の認識、キャッサバの加工をめぐる住民の関係に着目した。キャッサバの品種に対する住民の嗜好・利用を知るために、キャッサバ改良品種を受け取った 26 人の住民に聞き取り調査を行ない、また、他人のキャッサバでウォーターフフ（写真）という加工品を作る若い男性の仕事から誰が恩恵を受けているかを知るために、その仕事を観察した。

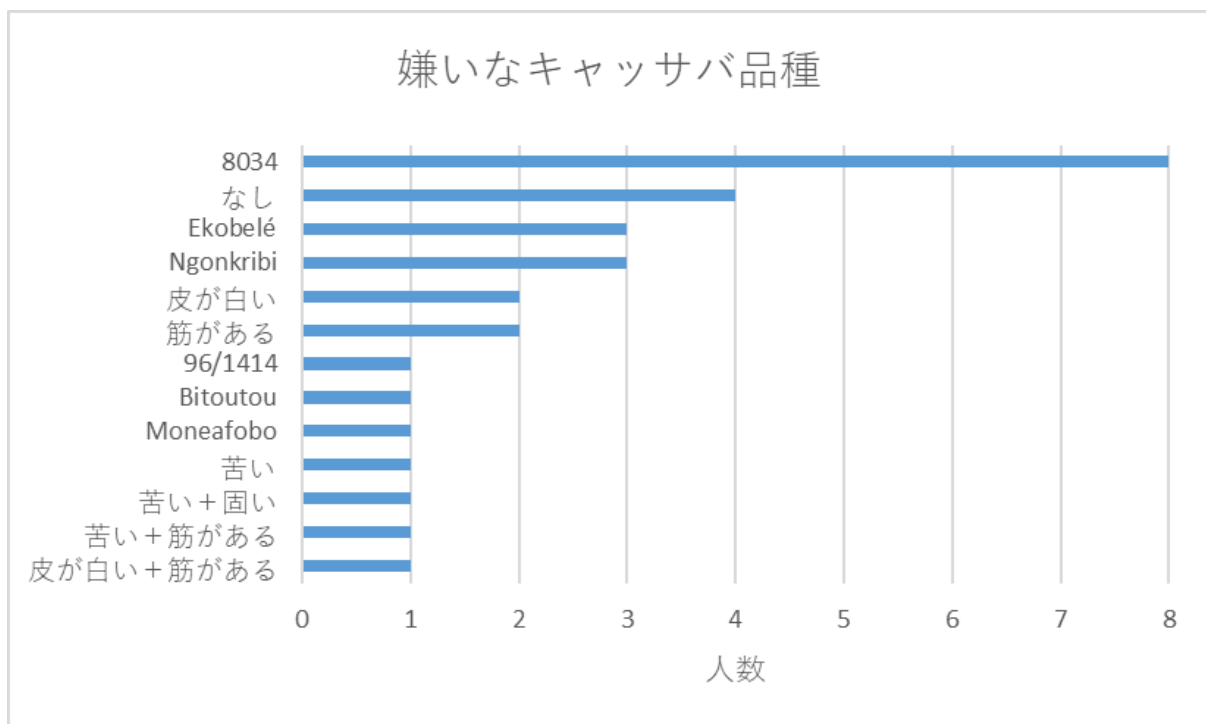
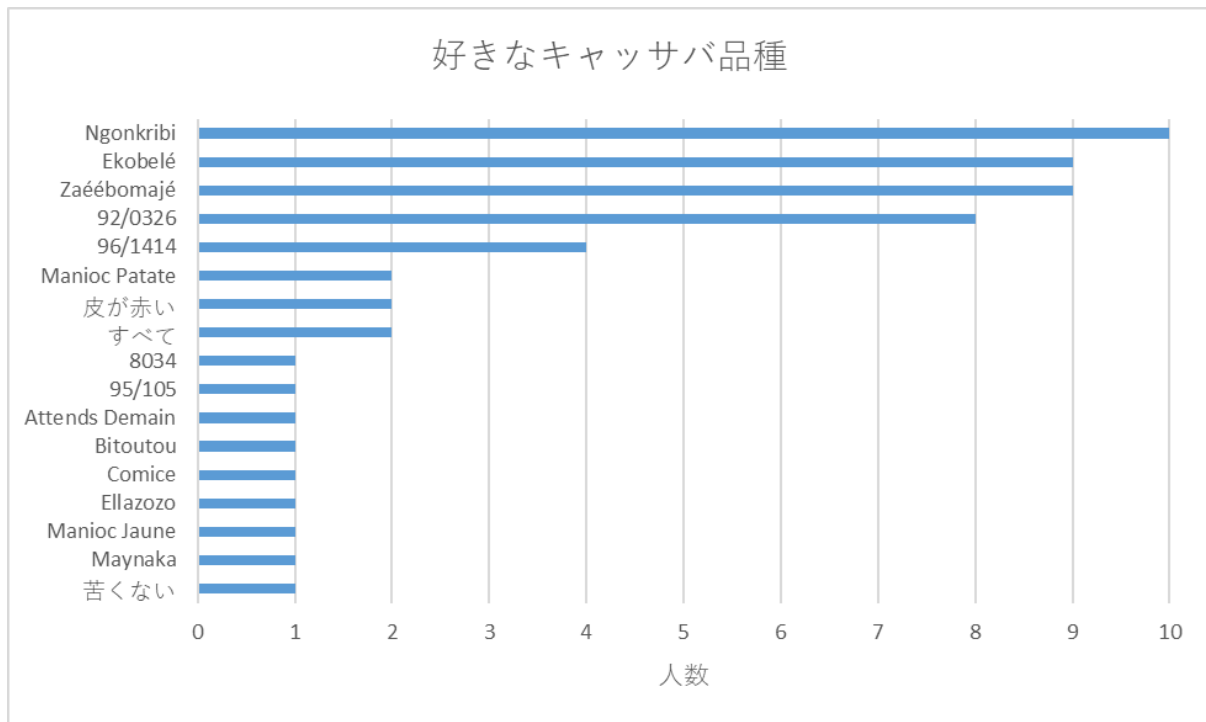
## フィールドワークから得られた知見について

親族集団 A に属するこの若い男性はウォーターフフを作るために親族集団 A からのみキャッサバを購入するが、自身の商売のためには、親族集団 A との関係が悪い親族集団 B の労働者を多く雇用する。親族集団 A の多くはキャッサバ改良品種と大きなキャッサバ畑をもっているため、彼はもっぱら親族集団 A からキャッサバを購入する。また、自身の親族集団 A が妬んで仕事を手伝ってくれず、親族集団 B の労働者を多く雇っている。親族集団 A の社会内には多くの相互扶助活動が存在するが、親族の成功を望まない者に妬まれることもある。

また、住民のキャッサバへの認識を調べたところ、芋・葉の多収性と味、耐病性、芋の筋の少なさという利点から 92/0326 というキャッサバ改良品種を好むことがわかった。他の 2 つのキャッサバ改良品種は、芋が苦く、筋を多く含むため、あまり好まれない。

## 反省と今後の展開

さらなる研究のためには、キャッサバの品種の認識・利用に関する地方市場のキャッサバ転売者への聞き取り、若い男性のウォーターフフを購入して加工・販売する人々を含むキャッサバ加工業者の仕事の参与観察による調査が重要である。



注：キャッサバの品種名を知らない回答者は、好きな・嫌いなキャッサバの特徴を説明した。



92/0326 というキャッサバ改良品種の芋



ウォーターフフというキャッサバ加工品